



夢は甲子園 そして、その先のステップへ

五十幡 亮汰さん (15歳・長野)

全日本中学校陸上競技選手権大会で、100メートル・200メートルを制し、二冠を達成。野球でも15歳以下の日本代表に選出され、一番バッターとして活躍した五十幡亮汰さん。中学時代「陸上と野球の二刀流選手」として注目を集めた若きアスリートは、この春、甲子園出場経験がある野球の強豪校に入学し、野球一本で勝負することになりました。

五十幡さんは、小学1年生のときに地元の少年野球チーム「行田東フェニックス」に入団しました。「イチロー選手のような走・攻・守、三拍子そろったプロ野球選手になりたい」そんな夢を抱きながら、夢中になって白球を追っていたそうです。6年生になると投手と遊撃手を兼任し、チームをけん引する存在に。さらには、年末に開催されるNPB12球団ジュニアトーナメントの東京ヤクルトスワローズジュニアチームの6期生として、野球の技術を磨きました。

小学校卒業後、東京神宮リトルシニアに入団した五十幡さん。監督から「高校で活躍できる選手



に育ててあげるから頑張れ」と言われたことが心に響いたそうです。シニアでは、50メートルを5秒7で走り抜ける驚異的なスピードと肩の強さを生かすため、中堅手に転向。課題だったバッティングも素振りや筋力トレーニングなど日々の努力で、力強い打球を飛ばせるようになりました。そして、2年生のときにはスターティングメンバーに名を連ね、「俊足、巧打の1番打者」として相手チームから警戒される選手へと成長していったのです。

「全日本中学野球選手権大会(ジャイアンツカップ)」に2年連続出場した五十幡さんは、2年生のときに準優勝、3年生のときには第3位という輝かしい成績を残しました。3年生で出場した同大会の準々決勝では、同点打とサヨナラ打を放ち、ベスト4進出の立役者となりました。そのときの勝負強いバッティングが高く評価され、昨年11月に愛媛県で開催された「U15アジアチャレンジマッチ2013」の日本代表に選出。「選ばれたからには絶対に結果を残す」五十幡さんは、韓国、台湾、松山市選抜の代表チームを相手に、1番・中堅手として全試合に出場し、堅実な守備と5割を超える打率を残し、代表チームの優勝に貢献したのです。

高校に進学し、新たな一步を踏み出した五十幡さんは「これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、レギュラー選手として甲子園で活躍したいです」と目標を語ります。さあ、憧れの舞台へ。機動力抜群の五十幡選手が、高校野球ファンの心をわしづかみする日はすぐそこです。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

棚田町 春田 枕流
雪降りて墨絵となりぬ夜半の窓
忍 飯島 素子
癒えし身を凍とし願う初参り

長野 野中せき子
ちぎり絵の糊のつめたき春燈
富士見町 森 節子
ひなかざり孫の部屋をば占領す

佐間 須永 節子
スコップに亡夫の文字あり雪をかく
清水町 柳沢 紀子
春近し雨音までもリズム取り

齊条 小林 英与
寒明けや少し長めの散歩道
持田 田子 敏枝
傍らに雪積む様のきこちなく

旭町 大川 和子
蹲の氷松葉を抱きよせ
城南 町田 達男
かれ枝に肩をよせ合ふ小鳥かな

城南 橋本千枝子
如月や夫の思い出とめどなく
持田 小倉 繁三
カーポート予期せぬ雪に崩れおり

持田 伊藤 洋子
幼な子の足にまつわる霜柱
前谷 町田 貞子
雪だるま愛犬肩に苦笑い

藤原町 上原ミサ子
庭先に四季の訪れ下垂梅
持田 大庭 光扇
玄関は春の香あふる鉢の梅

長野 篠崎 礼子
初雪が悲しい記憶覆う朝
城西 西田吉之助
陽は落ちて雪溶けの音刻みけり

下忍 阿部 義之
春ですぬ滝廉太郎の曲の花
荒木 国島 初江
大雪や親子でつくる雪だるま

(三沢 一水 監修)

はじめまして

平成25年
4月生まれのおともだち



平成25年6月生まれのお子さんを募集します

- 4月1日(火)~30日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、5月2日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

応募お待ちしております!



松本 琉汰ちゃん (下須戸)
平成25年4月7日生まれ
父 佳之さん 母 美恵さん
「笑顔がかわいい!」
甘えん坊♡



森田 湧心ちゃん (栄町)
平成25年4月16日生まれ
父 貴文さん 母 靖子さん
「元氣いっぱい!」
未来へ羽ばたけ!♡



柴田 結衣ちゃん (佐間)
平成25年4月9日生まれ
父 洋樹さん 母 由香利さん
「優しく元気に育ってね」



柴崎 春斗ちゃん (埼玉)
平成25年4月2日生まれ
父 祐次さん 母 智恵子さん
「お姉ちゃんと」
大の仲良し♡



小池 真愛ちゃん (本丸)
平成25年4月17日生まれ
父 秀幸さん 母 恵子さん
「家族みんなの宝物♡」



堀部 ららちゃん (持田)
平成25年4月6日生まれ
父 篤史さん 母 美奈さん
「☆堀部家の宝物☆」



ぎょうだの会社を クローズアップ!!

横田酒造株式会社

こだわりの材料と製法で、安定した味と品質を提供して209年



会社プロフィール
代表取締役 横田 保良
事業内容
清酒・リキュールの製造・販売

文化2年(1805)、近江(滋賀県)出身の横田庄右衛門により創業した横田酒造株式会社。「売り手良し、買い手良し、世間良し」という近江商人の「三万良し」の精神を貫き、209年もの間安定した味と品質の清酒(日本酒)を提供しています。

清酒は、精米から蒸米や麴、酒母を造り、それらを三回に分けて仕込んだ「もろみ」を発酵させるといった複雑な工程を経て造られます。同社では、3代に渡り岩手県の高橋家から南部杜氏を招き、長年培われた技術や知恵を駆使し、昼夜を問わず醸造しています。その過程で重要となるのが温度管理。特に気をつけているのが発酵段階で、もろみが入ったタンクに電気毛布を巻いたり、氷で冷やしたりするなど、子どものようにかわいがって育てるそうです。こうして約50日間、手間と愛情を掛け、清酒が誕生するのです。

同社は、酒の味を決める大きな要素である「米と水」にも徹

底したこだわりを見せています。米は兵庫県の「山田錦」など酒作りに適したものを玄米のまま取り寄せ、自家精米しています。毎年微妙に異なる米の質や状態を玄米の段階から把握することで、素材の味を存分に引き出すことができるのです。さらに、水は敷地内の井戸からくみ上げた荒川の伏流水を使用。「原材料にこだわることが、おいしい酒を造るための秘訣です」と横田保良社長は語ります。

銘酒「日本橋」で全国新酒鑑評会に過去23回入賞し、通算18回金賞を受賞するなど、数々の専門家をうならせてきた同社。また、清酒を身近に感じてもらうため、成田空港や百貨店などでの試飲販売や酒蔵見学の受け入れも行っているそうです。

「これからも、歴史と風土が醸し出す芳醇な味を受け継いでいきたい」と横田社長は酒造りの思いを熱く語ります。行田を代表する老舗酒造として、誰もが満足する銘酒を世に送り出していくことでしょう。